

### 未来に向けた病院づくりに挑戦

山口大学医学部附属病院は、平成27年4月より新病棟の建設を含む病院全体の再開発整備計画を国立大学病院としては初となる2回目の再整備を行う「トップランナー」として、本格的にスタートさせます。

近年の医療を取り巻く状況が大きく変化し、大学病院には今まで以上に診療の高度化・専門化・情報化及び多様化する患者さんからのニーズへの対応が求められております。

本院は、山口県唯一の特定機能病院として、急性期医療の充実や先進医療への取り組みを更に加速させる必要があります。

「山口大学医学部附属病院再整備計画」の整備基本戦略では、「Your Health, Our Wish (あなたのために)」をスローガンに、1.教育・研修戦略、2.研究開発・先進医療戦略、3.地域医療推進戦略、4.病院基盤強化戦略を掲げて、整備をすすめていきます。

患者さんのため、働く職員のため、地域医療の安心・安全のため、山口県の中核医療機関として更なる充実を目指して今後も精進して参る所存でございますので、引き続き皆様方にはご支援並びにご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



山口大学医学部附属病院長  
田口 敏彦



Your Health, Our Wish  
～あなたのために～

### 整備基本戦略(コンセプト)

#### Concept 1 教育・研修戦略

“医新前進”する医療プロフェッショナルを育成します。

#### Concept 2 研究開発・先進医療戦略

アカデミズムあふれる風土のもと、世界に発信する先進医療の開発と実践を推進します。

#### Concept 3 地域医療推進戦略

頼りになる“みんなの病院”を目指し、地域医療のリーダー(司令塔)となります。

#### Concept 4 病院基盤強化戦略

安心・安全で効率的な病院を目指します。  
患者(家族)・職員の満足度を向上します。

### 新病棟完成イメージ図



再開発整備事業の詳細はホームページをご覧ください!

<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

山口大学 再開発

検索

## 山口大学医学部 医学科後援会 会報 H26.12 Vol.8



医心門から実習棟Aを臨む。手前は医心館(福利厚生棟)。  
正面は松本彰先生之像(第二代医専校長・初代医大専長・初代病院長)

# Yamaguchi University Faculty of Medicine



# 会長就任にあたって

山口大学医学部  
医学科後援会会長  
石原 得博



このたび、加藤絃会長の後を引き継ぎ後援会会長に就任しました石原得博です。

重責ではありますが、会員の皆さんと協力して学生のために頑張りたいと思いますので、宜しくお願いします。

私は昭和38年に山口県立医大に入学し、1年目を宇部で、2年目は国立に移管したため山口で進学時代を過ごし、3年目(当時は専門1年生)より宇部で勉強をしました。昭和44年に山口大学医学部を卒業し、大学院博士課程に進学して以来、京都大学へ約3か月、アメリカ合衆国NIHに1年10ヶ月留学した以外は、平成20年3月に退職するまで宇部で、教育、研究、臨床(病理診断)に精進しました。医学部学生との直接の関わりは私が大学院生時代に病理示教の学生と夜遅くまで共に実習したのが始まりです。昭和56年にNIHへの留学から帰国後、助教授(現准教授)に、平成5年に教授に昇進しました。平成8年に学生部委員、平成10年より8年間山口大学の評議員を併任し、その間平成14年5月16日より平成18年3月まで医学部部長、大学院医学研究科長および医学科長を併任しました。

平成20年4月より生まれ故郷の近くの周防大島町公営企業局に勤務し、現在に至っています。世界最先端の研究分野から地域医療の分野への華麗(加齢?)なる転身でした。

## 学生時代の思い出

瀬戸内海の孤島(平郡島)に生まれて、高等学校時代に人口約3万人の柳井で生活していた田舎者が、全国から集まった兵(つわもの)と一緒に勉強することとなり、1年目は我武者羅に勉強に励みました。2年目から少しゆとりが出て、運動や趣味(囲碁)にも時間を費やしました。3年生から、先輩に誘われて病理学教室に出入りし、研究の手伝いをしました。まさか、一生続けるとは当時は思っていませんでした。勉強は可もなく不可もなくでしたが、囲碁では九州(九州・山口医学生)大会では2度個人優勝し、宇部ニチ本因坊にもなりました。空手部では卒業後もコンパ要員として貢献し、岡正朗学長の前に部長も務めました。

国家試験を大阪で受けた帰りに、叔父の家で試験の手ごたえを聞かれ、9割5分は出来たので大丈夫だと答えました。その時、叔父が9割で合格するのか、1週間違えても落ちるのではないのかと驚いていたのが、一生忘れられません。確かに10人の患者さんで1人誤診したら大変です。このように世間は厳しい目で医師をみているからこそ、尊敬もされるのだと思いました。

## 教授時代の思い出

学生部委員・評議員・学部長時代は特に教育・研究分野の組織作りに重点をおきました。医学系研究科(大学院)では応用医工学専攻系および応用分子生命科学系を設置しました。保健学科の4年制への移行後、修士課程さらには博士課程の設置および総合研究棟を建設しました。

学生への教育・厚生施設として学部本館、基礎研究棟、医学部図書館、臨床実験施設、共同研究棟、実習棟A、C、福利厚生施設棟(医心館)など多くの建物が新しくなりました。解剖献体者をお祀りしている慰霊棟(頌徳碑、納骨堂)も宗臨寺から現在の位置(図書館の裏)に移設し整備しました。医学部の石造りの正門(霜仁会および内野基金)は松崎益徳・中村和行両名誉教授のアイデアを基に造りました。その他では、産業通りの道の整備、ヒポクラテスの木(プラタナスの木)、ホルマリン対応の系統解剖台、エイズ(AIDS)、クローンフルト・ヤコブ(CJ)患者対応の病理解剖室の改修などにも関与しました。

## 学生へのメッセージ

まずは、医師国家試験に合格しなければなりません。それは目標ではなく最低条件です。勉強以外にプラスアルファ、例えばクラブ活動や趣味を持つ必要があると思います。一生医学の勉強するのだから、他の分野を勉強するのも良いでしょう。特に、山口での1年間他の分野の人たちとのコミュニケーションが後に役立つと思います。しかし、多くの人に支えられて医師になることを忘れず、本分の医学の勉強に励んで下さい。

## 後援会活動への抱負

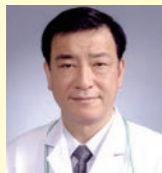
精神的なサポートは必須ですが、物質的な援助も必要です。幸い、医学科の同窓会である霜仁会や一般財団法人朋和会からの力強い援助があります。

クラブ活動が中心になりますが、山口と宇部との往復のバスに対して、後援会としても資金援助していますので、十分に活用するようにお伝え下さい。事故防止の観点から自家用車の利用はひかえる様に指導しております。学生生活が有意義であるように側面からサポートしたいと思います。

## 会員へのメッセージ

後援会は大学の同窓会とは異なって、いろいろな異なった職業の人々の集団です。医師になるという同じ目的を持った子供達を如何に手助けし、世の中に役に立つ医師に育てるかという同一の目標があります。全く異なった職業分野の人々が協力すれば、考えられないほどの大きな力となるのではないのでしょうか。

大切なお子さんを少なくとも6年間はお預かりしますので、大学側も出来る限りの努力をします。家族のサポートが最も重要と思いますので、子供とのコミュニケーションを十分にとって下さい。過去に留年した学生で、卒業の時期になって初めて子供の留年がわかった父兄がおられました。大学側も十分なケアをしますが、足りない点もあるかと思しますので、父兄と大学が協力して学生を教育していきましょう。



山口大学医学部長  
坂井田 功

平素より後援会の皆様には、多大なるご支援をいただきまして厚く御礼を申し上げます。

現在、医師などの医療人には、社会から、豊富な知識、高い技能、温かい説明能力が求められています。そのため、医学部医学科では、講義、実習の教育課程を充実させ、最高レベルで国際的な授業を提供し、学科を超えた交流を盛んにし、将来のチーム医療へ繋がる教育を展開しています。不安、絶望の中にいる患者さんに、少しでも夢と希望のある「明日に架ける橋」を、チームで作れる医療人の育成に努めています。また、豊富な知識のみならず、人生の荒波を超えられる「知恵と志」を兼ね備え、自発的に学習することができる人材の育成に取り組んでいます。

学生は、丁寧な授業や親切な実習だけでなく、自分の将来を託せる価値のある輝きのある母校かどうか、真剣に見ていると感じています。将来を託し、明るい未来を賭け、病める人の心の鐘を鳴らすことができ、さわやかな希望の香りがする若き医療人を、ここ長州から輩出できるよう教職員一同全力で取り組んでいます。何卒、引き続きご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。



医学科長  
大和田 祐二

山口大学医学部医学科では、病に苦しむ人々に対して、安らぎと安心を与えることができる、「社会に求められる医療人」の育成を目指しています。ひとくちに「社会に求められる医療人」と言っても、地域に根差しながら病に苦しむ人々に寄り添う医療を目指すもの、世界の先端研究者と凌ぎを削りながら新たな医療や真実の創造を目指すもの、あるいは社会が抱える医療問題の解決を目指すものなど、実に様々です。

山口大学医学科の教育は、まさにこうした多様な現代社会のニーズに応えるべく、基礎的な医学知識や技術はもとより、地域医療、医療人としての倫理、さらには再生医療や遺伝子治療などの先端医学研究など、非常に広範囲かつ充実したプログラムを提供していると自負しております。医学研究者、医療技術者、そして何よりも人間として社会に誇れる人材が、この山口の地から一人でも多く巣立ってくれることを心から祈っております。

後援会の皆様におかれましては、益々のご指導・ご支援をどうかよろしくお願ひ申し上げます。

# 平成26年度 理事会報告

## ■平成25年度 事業報告

平成25年度の実施事業から主な内容を抜粋してご紹介します。

\* 平成26年度も事業継続しています。

### 1. キャンパス間移動用バス運行補助

クラブ活動に参加する1年生送迎(吉田キャンパス⇄医学部キャンパス)のために、バス借上げ費用の一部の補助を継続しています。

これまで各クラブの先輩が後輩を車で送迎することが常態化しており、事故等が非常に危惧されてきましたが平成24年度からは、学生自治会及び利用する部活動からの負担金、医学科後援会及び保健学科後援会からの補助により送迎バスの運行を開始しています。

実施期間：平成25年5月～平成26年2月 (計151日 乗車許可証発行数99名)  
運行方法：大型バスにより平日週5日の1日1往復

吉田キャンパス発：月～水・金曜日 18時、木曜日17時 (計2233名)  
医学部キャンパス発：月～金曜日 22時30分 (計1874名)

### 2. 医学教育に関する事業

各学年の代表と教務部委員との教育懇談会の開催(平成25年12月9日開催 学生16名、教職員6名参加)、特別講演会の開催(毎年3回)、臨床実習の開始前に必須となるワクチン接種の自己負担額軽減のための助成、医師国家試験対策として模擬試験受験料の補助(計4回 受験者数 308名)を行っています。

### 3. 保護者見学会の開催補助

平成24年度から、医学科4年生および5年生の保護者の皆様を対象とした保護者見学会の開催を行っており平成25年度は、平成26年2月2日(日)に開催し、105名の参加がありました。見学会では、医学科の学生支援の取組み、臨床研修医制度やマッチングの仕組みについての情報提供と意見交換を行った後、キャンパスツアーとして頌徳碑(献体いただいた方の慰霊碑)やドクターヘリ、スキルアップセンター、地域医療教育研修センター「白翔館」などの見学を行っています。

平成26年度も、平成27年2月8日(日)の開催にむけて準備を進めています。保護者見学会を通して、山口大学医学部ならびに附属病院への理解を深めていただき、山口大学をはじめとし山口県内での医師定着へ繋がることを期待されます。

### 4. 高度学術医育成のための奨学金助成

平成22年度から、特に社会的要請が強い分野の研究医を要請する文部科学省の施策に対応し、大学院への進学を奨励し将来の研究医を要請する目的で「高度学術医育成コース」を医学科に設置しています。

本コースには、高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)と高度学術医育成一般プログラム(AMRAプログラム)をもち、学部・大学院教育の一貫システムとして4年生から大学院授業の先取り受講や研究活動を開始することができます。

高度学術医育成特別プログラム(SCEAプログラム)は、履修者のうち年間2名に月額5万円の奨学金制度が用意されており、法医学を中心とする基礎系分野へ進路選択を行った場合には返還が免除されます。

## ■平成26年度 役員のご紹介

役員名	氏名	
会長	石原 得博	山口大学名誉教授
副会長	福田 進太郎	霜仁会副会長
顧問	大和田 祐二	医学科長
保護者理事	島袋 智之	監事併任
	多原 哲治	
	木安 和夫	
	友岡 陽子	
	合馬 芳和	
	浜本 義彦	
	岩永 秀幸	
医学科関係等理事	藤岡 顕太郎	
	平野 均	
	村田 和也	
	和田 尚	
	菊田 幹夫	
監事(保護者)	田口 敏彦	病院長
	鶴田 良介	教授(学生部委員)
	田邊 剛	教授(学生部委員)
	藤宮 龍也	教授(教務部委員)
	山崎 隆弘	教授(教務部委員)
白澤 宏幸	霜仁会理事	
監事(医学科関係)	中村 和行	山大名誉教授



## ■医師国家試験受験状況

発表日	新卒者			既卒者			合計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
第106回(24.3.19)	88	82	93.2	15	7	46.7	103	89	86.4
第107回(25.3.19)	100	91	91.0	13	9	69.2	113	100	88.5
第108回(26.3.18)	92	85	92.4	13	9	69.2	105	94	89.5





教務部委員長  
藤宮 龍也

医学教育の世界では現在、黒船来航のショック期といわれています。米国の医師国家試験受験資格の審査機関(ECFMG)より、国際認証を受けた大学の卒業生にのみ2023年から受験資格を与えると2010年9月に通告がなされました。日本でもこれを契機に、医学教育のグローバル・スタンダードへの対応が求められるようになり、世界医学教育学会(WFME:WHOの関係機関)の行う分野別医学教育評価基準による国際認証を受けるべく、医学教育の改革が行われるようになりました。2013年にはWFMEの基準(日本語版)が発表され、アウトカム基盤型教育等の認証基準が示されています。

山口大学医学科では、診療参加型実習の充実、アウトカム基盤型教育の導入、国際・地域医療への対応、研究医養成等をカリキュラム再編の柱として、まず、2012年度よりカリキュラムの再編が2・3年次から順次開始されました。2013年には学士編入学を3年次→2年次編入学へと変更しましたが、くしくも同年より山口

大学全体で共通教育改革が行われ、教養科目が大幅に変更されました。2014年度にはカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)及びディプロマ・ポリシー(学位授与方針)が変更され(表1)、教育成果の達成を目標とするアウトカム基盤型教育が行われるようになります。即ち、学生は卒業時に修得しておくべきコンピテンシー(統合された能力)を達成することが要件となります。

臨床実習では診療見学型から診療参加型への変更が求められ、全国統一の共用試験(CBT, OSCE)と連動して全国医学部長病院長会議(図1)よりスチューデント・ドクター証(図2)が2014年より発行されるようになります。霜仁会後援の白衣式において授与されるようになりました。研究医養成については、自己開発コースを中心に大学院先取りコース(SCEA, AMRA)や海外留学支援(SMAC)が行われてきました。

今後は、本格的な診療参加型実習が4・5年生から順次開始されますが、シミュレーション医学の実質化やログブック・ポートフォリオ等を活用したアウトカム基盤型実習の実現、地域・社会から求められる医療人材の育成、医療プロフェッショナリズム教育と多職種連携教育、海外留学支援、国際認証への準備等を目標にカリキュラム再編が行われる予定です。

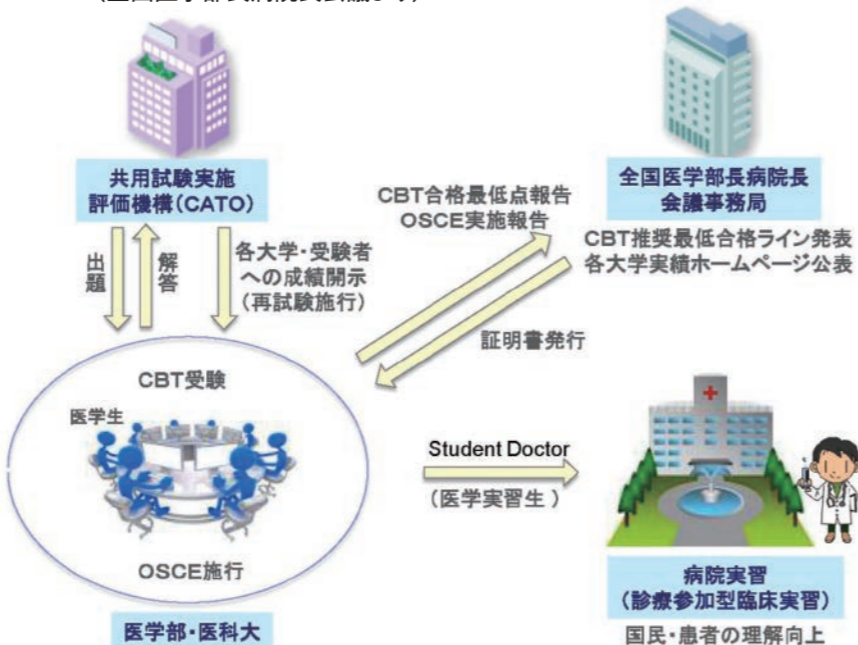
表1 ディプロマ・ポリシー

1. 医療プロフェッショナリズム
2. 科学的探究心
3. 自己開発能力
4. 医療基盤力
5. 総合的診療能力
6. 地域・国際対応力

図2 スチューデント・ドクター証



図1 共用試験全国統一医学生質保証システム  
(全国医学部長病院長会議より)



**CBT: Computer Based Testing**  
参加大学で一斉実施されるランダム出題試験により、臨床実習に参加する前に、学生の態度・技能・知識を含む能力や適性が評価される。

**OSCE: Objective Structured Clinical Examination** 客観的臨床能力試験  
学生の技能・態度を評価するための複数課題(シナリオ)を準備したステーションを6以上設け、一定時間内に適切な対応ができるか総合評価する。



医療人育成センター 准教授  
研修医・専門医支援部門 専任教員  
瀬川 誠

最近、医学部卒業後の様々な制度が大きく変わりつつあります。特に新しい専門医制度が平成29年度からの開始と決まっており、現在準備が行われています。今回は医師のキャリアデザインについて、お話をさせていただきます。

現在、医学部卒業後は2年間の初期臨床研修が義務づけられており、いわゆる研修医(初期臨床研修医)として過ごすことになります。(図1)この研修では、「将来専門とする分野に関わらず、一般的な診療で頻繁に関わる負傷や疾病に対する基本的診療能力を習得することが目標となります。初期臨床研修を行う病院は医学部6年時に医師臨床研修マッチング協議会が実施するマッチングという仕組みで決定されます。

2年間の初期臨床研修の終了後は多く方は専門医の取得を目指します。専門医の取得には、通常5年程度の後期臨床研修(専門医研修)期間が設定されており、専門的な技術を習得し、試験に合格することが求められます。これまでは専門医の認定は各学会が独自の判断で認定していましたが、このたび日本専門医機構が発足し、平成29年度からこの機構の定める新しい制度のもとでの専門医研修が開始されることになりました。基本的な構成として、基盤学会の専門医資格を取得後にサブスペシャリティの学会の資格を取得する流れとなっています。(図2)具体例を挙げると、基盤学会である日本内科学会が認定する内科専門

医を取得した後に、サブスペシャリティ学会である日本消化器病学会が認定する消化器病専門医を取得するという感じです。

専門医研修は、診療科にもよりますが、多くは大学の医局に入局し、専門的なトレーニングを受け技術の習得に努めることになります。最近では非入局(大学病院の医局に所属せず、市中病院に所属する形態)での後期研修を選択される方もいるようですが、大学病院を中心とした関連病院とのネットワークにより医療体制が維持されることが多いので、入局をした上で専門医研修を受ける方が様々な点でメリットが多く、大部分の方が大学の診療科の医局に入局し専門医研修を行っているのが現状です。

医師が一人前になるためには最低10年はかかると言われていますが、その間、優れた指導者のもとで様々な経験を積みながら医師として成長できることが大学の医局に所属するメリットと言えます。専門医としての研鑽を積みながら、同時に大学院に進学し基礎研究や臨床研究に携わり学位を取得する方も多く、海外留学をするチャンスも多くあります。専門医の取得後の進路は様々であり、大学病院や市中病院の第一線で活躍することになります。

山口大学は伝統ある国立の医育機関であり、世界に羽ばたく医学界のリーダーの育成を目標に掲げて、誇りを持って学生教育や若手医師の育成に取り組んでいます。また山口の地域医療を支える優れた医師の育成にも力を入れています。山口大学から世界に発信する新しい医療を作っていく若き力を育むべく日々の業務に取り組んでいます。

図1

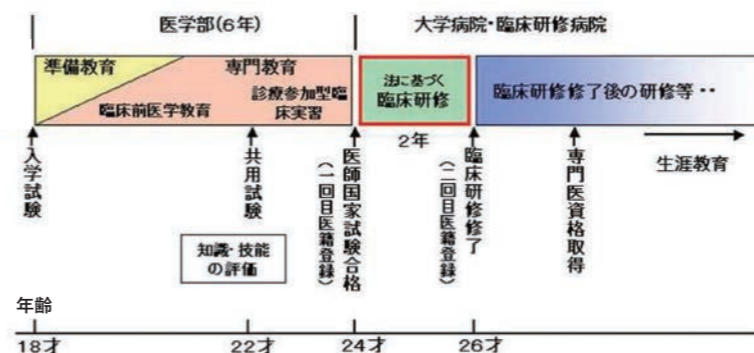
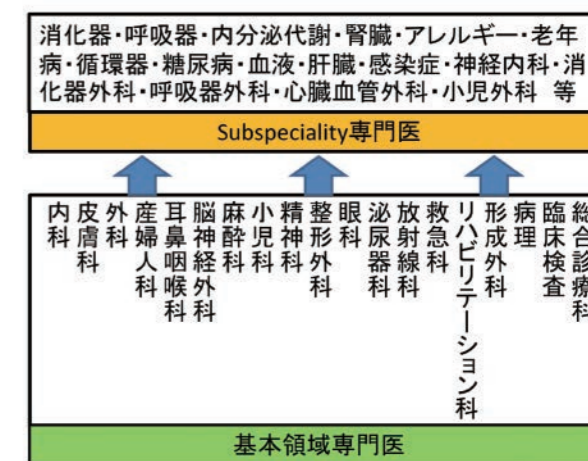


図2 新たな専門医制度の基本設計





# 医学祭を終えて ON YOUR FEET ～医気揚々～

第70回医学祭実行委員会  
委員長  
須藤 優太郎



●医学祭HPはこちら <http://70th-ymf.wix.com/heartbeat>

先日、11月7日から9日まで、3日間にわたって行われました、第70回医学祭のご報告をさせていただきます。

今年の医学祭は、立体駐車場の工事に伴い、総合研究棟前の広場を本会場として開催させていただき、ドクターヘリ展示、救急医療講習など、医学部にしかできない様々な企画をキャンパス内の狭い範囲に集約することができました。その結果、当日は若干の天気の影響はあったものの、幅広い年齢層の方にご来場いただくと共に、どの企画も期待以上の盛況となりました。

医学祭実行委員会では活動当初から「ON YOUR FEET ～医気揚々～」というテーマのもと、企画立案から運営まで行って参りました。「学生が主体となって医学祭を作り上げることで、自分の足で立ち上がり、この大きな庇護の元から歩き始める大きな第一歩としたい」という願いを込めて今年度のテーマを設定したのですが、医学祭に自発的にご参加くださったみなさんの楽しそうな顔を

見て、この医学祭が皆さんにとっての大きな第一歩になれたのではないかと思います。そして、様々な企画で学生と地域の方々との交流を見ていて、改めて医学祭は地域と医学部をつなぐ架け橋であると感じました。医学祭実行委員の一員として、また今後医療に携わる医療人として、この医学祭に携われたことで、一生に一度しかできない大変貴重な体験をさせていただいたと感じています。

最後になりましたが、医学部の諸先輩方をはじめ多くの関係機関の皆様、協賛して下さった皆様、来場者の皆様、この医学祭に関わって頂いた全ての方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。至らない点多々ありましたが、皆様のあたたかいご理解とご支援のおかげで無事、第70回医学祭を終えることができました。来年度以降も地域の方々や大学との懸け橋となるよう実行委員長を中心として努力して参りますので、今後も変わらぬご支援・激励を賜りますようお願いいたします。



第70回医学祭風景

## サークル活動紹介



本年度、山口大学医学部学生自治会で会長職を務めさせていただいております、医学科4年の中西俊就です。医学部学生自治会は医学部に所属する全学生で構成されており、修学や部活動・医学祭などを通じた学生生活の親睦の支援などを主な業務として活動しています。今年度の活動報告としては、これまでに引き続き、吉田-小串間の平日バス運行を実施することができました。山口大学医学部では、部活動に関しては1年生から医学部の部活動に所属し、活動の中心も宇部市となります。そのため、2年生以上の学生によって1年生の送迎が頻繁に行われてきました。部活によっては活動時間が夜遅くまでということもあり、日曜日に徹夜で試験勉強して、月曜の試験をこなし、その後、部活が午後10時すぎに終わって、1年生を山口まで送り届ける、というようなことが日常茶飯に行われてきました。このような学生による送迎は、交通事故の危険性が常に伴っている状況であったので、一昨年度より学生自治会で1年を通じての送迎バス運行が実現されました。これもひとえに大学をはじめとする様々な団体のご支援あったことだと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。

ところで皆様は、どのくらいの学生が、医学部サークルに所属しているかご存知でしょうか。医学部サークルというのは、医学部の学生からなるサークルで、2013年4月時点で、8割以上の医学生が所属してい



学生自治会長  
山口大学医学部医学科4年  
中西 俊就

ます。医学部サークルに所属するメリットはたくさんありますが、西日本の医学部の体育大会として西日本医科学生大会というものがあるのが毎年8月にあり、全国の医学部生との交流をもつことができます。今年度の西医体の成績としましては、大学別総合順位は健闘及ばず全44大学中23位でしたが、部門別に順位を見ますと、男子バスケットボール部門優勝(左上写真)、男子硬式テニス部門4位、男子ハンドボール部門4位、女子陸上競技部門5位など素晴らしい成績を残しております。もちろん順位を競い合う競技以外にも様々なサークルがあります。例えば心肺蘇生法などのBLS(一次救命処置)の普及を目的とした活動を行っているCode Orange(右下写真)では、宇部駅伝で自転車救急隊としてランナーの緊急事態に備え、AEDと救急セットを背負ってマウンテンバイクでコースを巡回しており、また市民のためのBLS講習会を開催するなど、地域住民の方々との交流を通じて社会に貢献しております。

山口大学医学部では、私たち学生の意見を取り入れる機会を多く設けて下さっており、学生一同とても感謝しております。それに見合うよう私たちは勉学に精進して参りますので、今後ともご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

